



国見っ子

令和2年度 第14号
国見町立国見小学校だより
令和3年 1月 8日
発行者 校長 本多 康弘



学校に子ども達の元気な声と明るい笑顔が戻ってきました。冬休みの間、子ども達はご家庭でどのように過ごすことができたでしょうか？事故や事件等にあわず、無事に冬休みを家庭で過ごし、3学期を迎えられたことをうれしく思います。今後ともご理解、ご協力をお願い致します。

しかし、残念ながら年末年始をはじめ冬休み中にも新聞やニュース等の報道では、新型コロナウイルス感染症の話題であふれていました。感染症についての報道の他、懸命に治療に当たる医療従事者のみなさんの姿が映し出されていました。本県においても、感染症関連のニュースが絶えることはありません。このことについて、新たな通知等があれば改めて文書等にてお知らせ致しますが、現在のところ、これまで同様の感染症対策をふまえて教育活動を進めていきます。

そのため、ご家庭においても、引き続き体調管理、朝の検温、マスクの着用、手洗いの励行等のご指導をお願い致します。また、誹謗・中傷、偏見・差別といった人権問題に関わるようなことのないよう、この機会に人権についても改めてご指導をお願い致します。

目標を目指して～新年の目標・将来の目標～

さて、いよいよ新しい年になりました。これまでの学校生活では、「できること」を探しながら、子ども達は成長を遂げてきました。それぞれの学年で、一人一人が学校生活にも慣れ、見通しを持った学校生活を送ることができるようになったと思います。そのため、少しずつゆとりがある学校生活を送ることができているのではないのでしょうか。

新年になるにあたり、今年一年の目標を立てたことと思います。できるだけ明確な目標を立てて学校生活を送ることが大切だと考えます。この「目標」について、アリストテレス(古代ギリシャの哲学者)が以下のように述べています。

『人間は、目標を追い求める生き物だ。目標に向かい努力することによってのみ、人生は意味あるものとなる』

感染症の問題は、医療から経済、社会の構造まで多くの問題が関連し、なかなか解決の見通しが持てません。さらに、日本国内や世界的な規模で抱えている問題もあり、複雑に絡み合い正解を導き出すことも困難が予想されます。このようななかでも、私たちは生きていかなければなりません。予測ができない社会にあっても、一人の社会人として自立していくことができる力と態度が必要です。

ベネッセの調査によると、子ども自身が目標を立て、自分の将来を見通せるようになることは、自立に向かううえで重要な要素であると結論づけています。また、将来の目標を持つことは、子どもの学習動機づけとしても意味が大きいとしています。

続けて、「将来の目標がはっきりしている」ことに影響を与えるものとして、「疑問に思ったことを自分で深く調べる」という経験をしているかどうかや、子どもの普段の行動力、自己肯定感、保護者の肯定的な関わり、保護者や他者とのコミュニケーションが必要であることも分析から明らかになっています。子どもが好奇心を持って調べたり、自分で行動したりする経験を重ね、自己肯定感を持てるように、子どもの成長を促すことが大切です。

新しい年が始まりましたが、3学期は学年のまとめとともに進級、進学準備も必要です。ぜひ、新年の目標とともに、進級、進学にあわせて、新年の目標・将来の目標についても話し合っ機会を持っていたいただきたいと思います。